

- ・開院 15 周年祝宴を終えて
- ・思春期保健セミナーに参加して
- ・オフタイム
- 詩の朗読と日本の女流文学

クリニック開院 15 周年祝宴を終えて

村口きよ女性クリニック院長 村口喜代

去る 9 月 13 日「村口きよ女性クリニック 15 周年記念祝宴」を行いました。

スタッフをはじめ、直接クリニックの運営に関わって頂いている方々と私の家族だけのごく内輪の会でした。たくさんの紆余曲折を経ましたが、ようやく安定した医療活動を行えていることに、スタッフ・関係諸氏と共に喜び・感謝しあうことができました。

第一線の産婦人科医療現場に身を置いてきてしみじみ思うのは、この 15 年間で性を取り巻く日本社会は大きく変貌してきたことです。

1999 年クリニック開院以来、増加し続けた人工妊娠中絶数は、2004.5 年以降減少の一途をたどり最高時のほぼ 8 割減になり、性感染症もほぼ 6 割減になった。単純に女性の健康を考えて喜ぶべきことと言えるのだろうか。1900 年代、性開放と共に無防備な性行動が加速し、異常な上げ潮となり、短期間に異常な引き潮に転じた日本社会をどう見るべきか。

ピル、緊急避妊法が少しずつ普及してきたが、そのことでは説明できない次元で人間の性行動に変化が起こってきた。2 年前に「青少年の性行動調査」で「若者の性行動の分極化かつ消極化」の調査がある。性行動はあまりにも日常化し、めずらしいことではなくなり、多チャンネル化した生活構造の中のその 1 つになったと言われた。昨年東京都の幼・小・中・高校生教育研究会の調査でも、「性交を考えたことがない高校生が増加」「性交経験（高3）の大幅な減少」の結果がでた。

性の関係性が足踏み、後退してきた背景に、LINE、Facebook、Twitter など様々な SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）・インターネットの進化・普及は大きいと思われる。相手を傷つけたくないが自分も傷つきたくないとの心理、コミュニケーション能力の低下や人間関係の希薄化など取りざたされている。日本経済の混迷、不安定・不安な時代が慢性化し、若い世代の非正規雇用が増加等、さらに今年は貧困率が 16.3%（6 人に 1 人が貧困層）と過去最悪を記録し、いまだ先の見えない状況にあることを見落とせない。

これらの流れは「人間の性」を語るとき、その歴史の通過点として見るべきなのでしょう。この引き潮の時に人は何を考え、次の一步をいかに進むのかを考えることが出来ればいいのでしょうか。人間関係、男女・性の関係性は今ようやくより人間らしい一步を進められるかを試されているのでしょうか。

一人一人が性の正しい知識を持ち、コミュニケーション力を高め、より良い性の関係性を作っていける社会をめざしていかなければならない。

産婦人科医療の立場から、その支援ができればと思います。今後ともご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



～思春期の問題は卵と精子が結合した瞬間から～ 看護師 菊地香織



9月26-28日に思春期保健セミナーに参加してきました。セミナーでは思春期の心理や男子・女子の生理、思春期の問題行動など思春期の基礎から専門性のあることまで幅広く講義を受けてきました。

その中でまず思春期の子どもたちと接するには、その子の価値観、考え方を受け入れ共働する関係でなくてはいけないということ、その子一人ひとりに合った関係性を作っていくことが大切であるということ学びました。反抗期も自分が一人の人間として自我が確立され親との考え方の違いなどから親を冷静に見るようになり、冷静に否定するようになる成長過程でとても大切なことであるということです。

また思春期の問題は思春期に起きたこと、起きていることが原因ではなく、それ以前の問題が大きく関わっているということです。私はこのセミナーで「思春期の問題は卵と精子が結合した瞬間から始まるとまで言われている」と講義を受けました。妊娠中であれば妊婦の喫煙で子どもの12歳までの睡眠障害のリスクが高くなること、子どもの動脈の構造や機能に悪影響を与えるということ、母親の妊娠中や現在の不安状態は3歳児の内向的問題行動（引きこもり、不安など）のリスクに関連している。また外向的問題行動のリスク増加に関しては、出産から3年後までの母親の気分との相互関係が認められ、妊娠中のストレスが出生児の喘息のリスクを上昇させ、乳幼児期においては食生活が子どものIQに大きく関わり、親の喫煙により子どもの血圧の上昇など、思春期とは一見無縁のように思われる性の分化の段階からの理解が必要なのだと今回学びを深めることが出来ました。

今回宿泊したホテルが東京大神宮近くだったため、普段から“朝活”していた私は毎日より一時間散歩し、セミナー前には東京大神宮でお参りし、久しぶりの一人の時間を過ごすことができ有意義な時間となりました。

詩の朗読と日本の女流文学

禁煙外来担当 山本詩子 先生

宮城県の女性医師の集まりである宮城県女医会は、隔月に例会を開催して、種々の分野のゲストの講演を聴いています。平成9年9月の例会に、玉懸洋子先生をお招きしました。先生は東北大学文学部のご出身で、朗読や古典の読み方を指導する活動をされています。例会では詩人、茨木のり子の「私が一番きれいだったとき」を朗読され、その朗読に魅了されました。

それから、有志で朗読の会を立ち上げ、先生に無理にお願いして、年4回のご指導を受けることになりました。今まで文学に親しむことの少なかった女性医師たちは、茨木のり子の他に女流詩人の永瀬清子や石垣りんを紹介して頂き、彼女たちの自らの言葉で自己を表現する力に感動しました。

さらに、平安時代の蜻蛉日記、更級日記、枕の草子や源氏物語、江戸時代では仙台藩に住んでいた只野真葛、そして与謝野晶子や樋口一葉と10年以上をかけて、文学を通じて日本女性の生き方を学ぶ楽しい会になりました。



年末年始休診

12月28日(日)～
1月4日(日)は年末
年始の休診となります。

編集後記

街路樹が美しく色づく季節、あっという間に今年最後のきよくりNEWSとなりました。
少し気が早いですが、みなさんにとって今年はどうの一年でしたでしょうか。
ゆっくと振り返り、来年をさらに素敵な時間にしたいですね 😊

